

平成3年度福岡市民芸術祭参加

SEINAN CHANTEURS

'91 ANNUAL CONCERT



'91西南シャントゥール定期演奏会

賛助出演／エコー西高宮女声合唱団

1991.11/24 金
メルパルクホール福岡

主催／西南シャントゥール
後援／福岡市民芸術実行委員会



Hail, Seinan

Seinan, our bastion of faith,

Vivid dream of a bygone year,
Crown'd with honor, love and truth,
Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater!

Lighthouse by the sea, radiant,
Gleams for her sons and daughters
With God's love, resplendent.

ごあいさつ



徳永麟之助
西南シャントゥール会長



内海 敬三
西南シャントゥール
常任指揮者

昨今は P T A のおかあさんコーラスの隆盛とそれを母胎にした女声合唱団が各地に誕生し、活発な活動を展開しています。合唱文化の裾野が本当に広がりました。とりわけ福岡は昔から合唱の盛んな地ではありました、いま正に百花繚乱の感がいたします。それだけに技量の向上は勿論ですが、持ち味、特徴、特異点ということが団の存在理由の非常に重要な要素に成ってきていると思います。私どもシャントゥールは幸いにも数少ない男声合唱団であり、それがそのまま大きな特徴とはなっています。また希少価値に助けられ、各地各方面から多くのお招きを頂くのですが、残念ながらアマチュアの身、全てにお応えすることはできません。それでも根っから歌好きな男たちですのでかなり過密なスケジュールをこなし確実にご支持の層も広がりつつあります。それだけにメンバー一人ひとりが万難を排して自分の責任を果たし、精進することがいまほど要求されている時はないと考えています。団員一人ひとりの責任の上にこそ団の歴史と伝統は築かれるのですから。贊助出演くださいましたエコー西高宮の皆さん、ご来場の皆さん本日は本当に有難うございました。

「アイヌ」という言葉を知らない人は少ない。「北海道」「熊祭り」「ひげと刺青」「金田一京助」と断片的な連想は浮かぶ。だがその民族の歴史、文化、習俗については一部の研究者を除いてほとんど知られてはいない。かれらの音楽もそんな一つだが、西欧のそれとは異なる独特のものがあった。今回我々はそのアイヌの音楽に挑戦する。だがアイヌ語の複雑な音声を正確に再現する知識も能力も我々は持ち合わせていない。辛うじてアイヌ民謡研究家近藤鏡二郎氏の採譜になるカタカナ表記に従うのみである。今回取り上げた清水脩の「アイヌのウポボ」は関西学院グリークラブ（指揮北村協一）によって、リンカンセンターで演奏され話題となった曲である。不響和音を多用した、男性的且つダイナミックなこの曲は、シャントゥールがこれまで歌ってきたものとは全く異なり、我々には極めてチャレンジングであるが、アイヌの自然に対する熱い思いを感じる。また同時に聞く側にも、ある種の「構え」なり、バトスなりを要求するようと思える。その点では第一ステージの多田武彦の作品と全く対照的である。どちらかといえば日本的、叙情的な多田の旋律、ハーモニーは、誰しもある種の親しさ、懐かしさをもって何の抵抗もなく受け入れることが出来る。とはいって、8分や16分音符が連続する「樅の樹の歌」では「詩」を如何に音楽的に歌うかが大きな課題となる。「樅の樹の歌」は未だ出版されてはいないが、この度、氏の厚意で演奏できることになった。感謝である。とまれ、この二つの作品は男声合唱を充分に知り尽くした作曲家のものである。問題は我々が限られた時間と能力でどれだけ掌中のものにするかである。本日は貴重な休日にご来場いただき心より感謝申し上げます。

「一日練習しないと、自分にわかる。二日だと、批評家にわかる。三日になれば、聴衆にわかる」(ヤッシャ・ハイフェッツ)世界のトップを行くプロの言葉である。週一回二時間の練習のわれわれとは月とすっぽんの違いがある。素人の趣味ことは所詮自己満足の域を出ないのだが、カラオケの自己陶酔のそれとは多少違う感がする。自己を100パーセント出ししかも他を侵さず全體で一を表現するアンサンブルの世界だからだ。しかも家族、友人、知人が中心とはいえ、多くの方々にお聞きいただく以上、何らかの満足を提供できなければならない。人前で恥をかきたくないという域を超えたものをわれわれは要求されていると思う。それは大きなプレッシャーではある。しかしこのプレッシャーこそがわれわれに緊張を与え、より美しいハーモニー、よりよいアンサンブルへと動機づけていくのだと思う。せめてハイフェッツの千分の一の緊張感を抱いて練習に励まねばと自戒する日々である。ご来聴心より感謝申し上げます。

西南シャントゥール一同

I 男声合唱組曲 「樅の樹の歌」

作詩 尾崎 喜八

作曲 多田 武彦

春の牧場

金峯山の思い出

故地の花

音楽的な夜

樅の樹の歌

PROGRAM

II マドリガルとポルカ

四つのイタリーのマドリガル

作曲 ゴダーラ・ゾルターン

● Cni vuol veder (愛をこの目でみたいなら)

● Fioro scoloriti (萎える花)

● Cni d'amor senti te (愛を感じる彼)

● Fuor de la bella caiba (籠の外では)

ピツィカート・ポルカ

作曲 ヨハン&ヨゼフ・シュトラウス

トリッヂ・トラッヂ・ポルカ

作曲 ヨハン・シュトラウス

合唱／エコー西高宮(賛助出演)

intermission

III 男声合唱組曲 「アイヌのウポボ」

採譜 近藤鏡二郎

作曲 清水 梢

くじら祭り

イヨマンテ(熊祭り)

ピリカピリカ

日食月食に祈るうた

恋歌

輪舞

IV 黒人靈歌

Little Innocent Lamb

Joshua Fought the Battle of Jerico

Deep River

Set Down Servant

Listen to the Lamb

I 男声合唱組曲「樅の樹の歌」

多田 武彦

作曲者からのメッセージ

91定期演奏会おめでとうございます。いつまでも、合唱音楽のもつ素朴な人間の魂の表現を、いろいろな曲を通じて、投げかけていく喜びを持ち続けておられるメンバーのみなさんの熱意に、心から敬意を表します。また、今回は「樅の樹の歌」を探りあげて頂き、厚く御礼申しあげます。

詩人尾崎喜八先生の詩に作曲したものとしては、1974年の「尾崎喜八の詩から」、1986年の「尾崎喜八の詩から・第二」、1989年の「樅の樹の歌」、1991年の「秋の流域」があります。いずれも、尾崎先生の清廉な詩風に感動して作曲したものばかりですが、特に「樅の樹の歌」は、実社会で活躍し、家庭の主柱としても責務を果しておられるかたがたに、共感を呼ぶ内容のものが多いように思います。そうした点から、西南シャントゥールの演奏もきっと影の深いものとなることでしょう。

演奏会のご成功とますますのご発展を心からお祈り申しあげます。

「春の牧場」四月の信州がこの詩の舞台。長かった冬が終ると信州にはどっと春が押し寄せてくる。桃や桜や梅や杏子が一齊に咲いて、裸だった木々は柔らかな緑の若葉にくるまれる。いろいろな小鳥の歌が暁やかに、頭上の雲も帆のようだ。

I 春の牧場

あかるく青いなごやかな空を

春の白い雲の帆がゆく。

谷の落葉松、丘の白樺、

古い村落を点々といろどる

あんず 桜が 旗のようだ。

ほのぼのと赤い二十里の

大気にうかぶ槍や穂高が

私に流離の歌をうたう。

牧柵や 蝶や 花や 小川が

存在もまた旅だと私に告げる。

だが 緑の牧の草のなかで

風に吹かれている一つの岩、

春愁をしのぐ安山岩の

この堅い席こそきょうの私には好ましい。

「金峯山の思い出」昭和八年、作詩者が山梨県北巨摩郡のラジウム鉱泉の金泉湯、金山平の瑞牆(みずがき)山、金峯山方面に登山した時の思い出を詩にしたものである。最初から最後まで「・・・たな」という終止形を繰返して、旅の思い出を歎かれてよく展開している。

II 金峯山の思い出

金泉湯の若いおかみさんは

どこか艶ながらんとしていたな。

金山ではぴかぴか稲光りの飛ぶなかで

雨傘さして鉄砲風呂へはいったな。

きれいな翌朝

外廻を栗毛の北馬がのぞきに来たな。

端牆でっぺんの岩登りに山案内の千代一が

四十を越したでおら止めたとかぶりを振ったな。

それにしても朝日のさしこむ本谷川の

あのむせかえるような新緑を思い出すな。

ひっそり藤の咲く桂平の岩へとまって

川鶴がヴィッ・ヴィッと鳴いていたな。
松平牧場のちらちらする白樺のあいだから
ほうとかすんだ雲母刷の空の奥に
ハガ岳がまるで薄青い夢だったな。
富士見平で富士を見ながら水を飲んだな。
そうしかんばのそばに湧く
つめたいきれいな水だったな。
大日小屋でくさやの干物を焼いていると
あたまの上ではとどぎすが鳴いたな。
長い陰気な横ハ町綾ハ町の登りだったな。
尾根へ出たら目が覚めたようだ、
簡ぬけの空にくらっとしたな。
もう其處では暑さと寒さとが織になっていたな。
真白な岩稜づたいの砂払いから兎の吹上、
けさ国師の小屋を立って来たという
四人連れの一一行にひょっこり違ったな。
それからどうとうてっぺんだったな。
天のほうが近かつたな。
二人きりだったな。
なんだか人間をもう一皮脱ぎたいような気がしたな。
とにかく胸をはだけて涼しい大きな谷風に
汗みずくのシャツを帆のように脳らせたな。
シャツがはたはたと鳴ったな。
だが髪の毛が逆立ったのは
風のせいばかりでもなかつたな。
それから五丈石の下へうづくまって
ハンケチの端で珈琲を濾したな。
思い出せば何もかもたのしいな。
その六月がまた来るな。
だがなかなか山へ行くどころの騒ぎではないな。
千代一もとても食っては行けないといっていたな。
東京に伴の人足の口は無いかと訊いていたな。

「故地の花(妻に)」仕事のために一人で行った富士見の夏、三ノ沢で採った佳い香りを放つ伊吹磨香草(イフキシャコウソウ)を、炎熱の東京で留守を守っている妻に与えようと手紙に封じてやった。七年の記憶を呼び起こしてお前は汗まじりの涙を流すだろう。

Ⅲ 故地の花(妻に)

山の田圃を見おろして行くあの細みちの
あの同じ場所一面に、
こどしの夏もかわらずに
この伊吹磨香草はこぼれるように咲いていた。
私たちにななたびの
なつかしい夏の思い出の草は、
つぶつぶの葉、針金のような蔓、
薄紫のこまか花をこまかに綴つて、
摘めばつんと鼻をうつ
爽やかな匂いの霧を噴くのだった。
押葉となって手紙の中に萎えてはいるが、
この高原故地の花の発する
まだ消えやらぬ夏の匂いは、
誠実な心のように、歌のように、

あわれ流寓七年の永いよしみを囁いて、
梅雨も上がった炎熱の東京で
お前の汗まじりの涙を呼ぶには充分だろう。

「音楽的な夜」乙女や鶴や射手座が、西から南西へかけて釜無山脈の上に沈みながら大きく傾いている夜。富士見の高原は歩けばびっしり濡れるほど露が繁く、コオロギやズズムシやカンタンの声がついで廻る。その虫の声と山の端に横たわる星の光が一体となって、音楽的な夜を感じたのである。

IV 音楽的な夜

日が暮れると高原な露がむすび、
びっしり濡れたほのぐらい草の果てまで、
りんりんと、きょうきょうと
震え輝く虫の音に満たされる。
夜空をかぎる山々の黒い影絵も
光をかなでる樂器の列をおもわせる。
「乙女」や「鶴」や「射手」の星座が
身をかがめ 弓を波うたせて彈き入っている。

「桜の樹の歌」上記四篇に比べ一層内省的色彩の強い詩。富士見での晩年十年間の生活。十年という歳月、人がもし若ければ、世路かりそめの遠望として忘れ、惜しむことも無いであろう。だが既に五十を越えて深刻な晩年を生きる私にとっては、それは意味に満ち、物に満ち、人生の光と陰に満ち満ちた、重たく多彩な、いとも彫り深い時間であった。

V 桜の樹の歌

O Tannenbaum, O Tannenbaum,
wie treu sind deine Blätter!
私はやはり自分が
なおもっと充分若かったらばと思う。
そうしたら私は滑るだろう、
冬に北方の高原地方で、
新しい粉雪に被われた広い、深い、櫻の林を、
一日じゅう、一人で。
だが、仲間が厭だというのではない。
若くて、若きのために眩ゆいほどで、
仲間への愛や協同の念に燃えて、
それでいて孤独の味を知っているという事は、
たしかに美しく、男らしい。
私はやがて雪と夕日との高原の林を
遙か人里のほうへ滑って来るだろう。
私は湧き上がる紫の暮色のなかで
悔いもない純潔な自分に満足するだろう。
私は試練と冒険とに待たれている
自分の未来にはほえむだろう。
その時私は歌うだろう。
青春の我が身をたたえるように
頼もしい、眞実な桜の樹の歌を！
私は、時々、やはり自分が
なおもっと充分若かったらばと思う。
しかしそれとは違う事で、今日、
更に多くをできるかも知れない。

II 四つのイタリーのマドリガル

賛助出演
エコー西高宮女声合唱団

1. 愛をこの目でみたいなら

目に見えるキューピッドを見たい者は誰でも
私の心を盗んだひとを見よ。
彼は彼女の眼の中、そこにいる。
弓と矢を携えて。
彼はまわりのどの男にも
戯れに恋をする者にも矢を放たず、
ただ彼が真と思い、
彼に仕える者にのみ矢を放つ。

2. 蕊の花

風にゆらぐ、
色あせた花々よ、すみれたちよ、
お前たちの「婦人」はどこに去ったのか?
そしてお前たちを照らすあの「太陽」は?

私たちの「婦人」は、その心にいつも、
新しい美をひろげた「太陽」と共に去りました、
そしてとても遠くへいったので、
私たちはとても悲しんでいきます。

不幸な花々よ、すみれたちよ、
お前たちは、お前たちを陽気な光で
みたしていた神の焰から離されたのだ。

そのどおりです、私たちも、私たちの
すべての根もその痛みを感じています、
そしてあなたも、あなたの自身にとっての
不幸を悲しんでおられるのですね。

3. 愛を感じる彼

愛を感じ、まことの心あるものは
正しい小路をけっしてまちがってはならぬ、
もし、たとえ、女性から満足すべき
ひとみや扱いをえなくとも、

けっして望みと勇気を失ってはならぬ、
そのときにもなやみをまっすぐにうけとめ、
いつもかしこい洞察をもって、
たとえ苦しくとも、高貴であろうとも、
恥しめをうけるようなことがあろうとも
「愛」に従わねばならぬ。

そして愛から学ぼうとするものは
なやみに対して開かれた心をもち、
すべてのささいなことに後退してはならぬ、
しかしみずから女性に
従順でなければならぬ、
すべてのなやむものは
その庭から花束を得られるのだから。

踊りつつ「愛」のもとにゆき、
気にいられるように試みよ、
そして私はすべての恋するものに忠告する。
みずから女性を敬え、
女性は知識の源であり、
そのうちに光と神の一部を
たたえているのだから。

4. 笠の外では

彼の鳥かごから
夜鳴き鶯が逃げ去った。
彼はその小鳥を嘆き悲しんだ。
見つけられなかつたから、
新しい鳥かごの彼の小鳥を。
彼は苦痛に満ちてこう言う、
誰が鳥かごを開けたのか。
誰が鳥かごを開けたのか。
彼は木立ちをよく訪れるようになった、
そしてその鳥が何とも美しく歌うのを聞いた。
彼は苦痛に満ちてこう言う、
おまえは美しい、とても美しい、
夜鳴き鶯よ、さあ私の庭にお帰り。

日本音楽著作権協会(出)許諾第9170400-101号

邦訳／羽仁協子



本日は西南シャントゥール様の'91演奏会にお招きいただきましてありがとうございました。私どもは発足以来21年、行徳先生をお迎えしてからでも14年になります。メンバーは福岡全域から集っております。行徳先生は響きのある美しい声、透明感のある和音が出来る様にと基礎作りを大切にされます。一方、福岡は転勤の街、メンバーの出入りもはげしくていつも基礎作りだけに追われている感じです。それでも20年の歳月は何となく伝統を創りつつあるような気が致します。西南シャントゥール様は、この春私どもの定期演奏会にご出演下さいまして大変な好評を頂きました。今日はその恩返しもありまして一生懸命歌わせて頂きます。

女声合唱団エコー西高宮



指揮
行徳 瞳代



ピアノ
吉良かほる

武蔵野音楽大学声楽科卒業、同専攻科修了。須須美子、リア・フォン・ヘッサートに師事。日本合唱協会入団、各種演奏会出演。1976年より福岡市在住、合唱指導をはじめる。現在「エコー西高宮女声合唱団」「西日本文化サークルコーラス部」指導。1987年から「ふくおか8000人の第九コンサート」合唱講師、今年も「ふくおかアジア合唱音楽祭」の第九コンサートを指導。1990年、91年合唱組曲「どう列車がやってきた」総合指揮。熊本市での九州マンドリンフェスティバルにて、オーケストラと共にソロで出演等、ソロ活動を始める。

長崎活水女子短期大学音楽科卒業。志賀のぞみ氏に師事。ヴァイオリニスト東彩子氏のもとでアンサンブル、伴奏法を勉強する。1981年ジョントリサイタルを開催、1981年~1985年にふくおか「ふくの会」コンサート、1984年「ふくの会」サロンコンサートに出演する。1987年より「ふくおか8000人の第九コンサート」の伴奏を務める。現在「エコー西高宮女声合唱団」「西日本婦人文化サークルコーラス部」伴奏者。

エコー西高宮のあゆみ

1970年4月	福岡市立西高宮小学校PTAコーラスとして発足。	7月	九州サマーフェスティバル市民のためのコンサート出演。
1977年7月	行徳聰代先生を指導者に迎え名称を「エコー西高宮」と変更。西高宮公民館サークル活動になる。1975年よりお母さんコーラス交流会毎年出場。	12月	音協クリスマスコンサート出演。
1984年11月	第1回演奏会「秋にうたうふたつのエコー」名島エコーと共催。	1989年5月	第12回全日本おかあさんコーラス九州支部福岡大会出場。
1985年4月	福岡合唱連盟加入。	6月	合唱連盟第44回合唱祭出演。
5月	第2回エコー西高宮女声合唱団10周年記念演奏会。	1990年4月	福岡フランエン・コール第4回定期演奏会賛助出演。
6月	合唱連盟第43回合唱祭出演。	1991年6月	第3回エコー西高宮女声合唱団演奏会。
		11月	ふくおか女性まつり'91三枝成影スペシャルコンサート出演。
		11月	'91西南シャントゥール定期演奏会賛助出演。

ソプラノ

阿南百合子	宮部 浩子	大石 礼子	川口 浩子	篠田 道子	伊佐 優子	牛嶋あけみ
畠江 節子	高橋 恵子	田中まゆみ	中村美奈子	平井 和子	小池 紀子	篠原 孝子
渡辺 繁子	安田 ユリ	藤並 直枝	松原マユミ	山下 宏子	高橋 葉子	西村ミツエ
辛島 範子	西田 芳子	川上佳代子	後藤 邦子	高塚 順子	井手 洋子	江島 幸子
早瀬 節子	山田 和子	豊嶋キヌヨ	西田 純子	幸田 侑子	芹沢 桂子	中尾多代子
鷲山 洋子		星野由己子	村田 治子	山下 邦子		

メゾソoprano

伊佐 優子	牛嶋あけみ
小池 紀子	篠原 孝子
高橋 葉子	西村ミツエ
井手 洋子	江島 幸子
幸田 侑子	芹沢 桂子
中尾多代子	山下 邦子

アルト

III 男声合唱組曲「アイヌのウボボ」

日本は単一民族の国だと思っている人は多い。「大和民族」のほかに「アイヌ民族」がいることにすぐには思い至らないのだ。それほど明治以降はアイヌ民族の大和民族への同化が進んだ。とりわけ近年は差別問題もあって特別視することは一段となくなったし、アイヌ自身も若者を中心に同化を早めていった。だがアイヌ民族の歴史や伝統や文化がこのまま埋没していくのはなんとも残念なことである。金田一京助博士を始めアイヌ研究家の業績を通して文献はのこるであろうが、古老的伝えてきた生の民謡、神謡、伝説ははたして次の世代の若者に受け継がれるのだろうか。アイヌには独自の表記文字がないだけに音声言語による「伝承文化」をこそ保存して貰いたいものである。なにはともあれ、我々が現在アイヌ語を直接耳にする機会は殆どない。ましてアイヌ語を忠実に再現する術はさらになく、楽譜に記されているアイヌ研究家近藤鏡二郎氏の片仮名文字と作曲者清水脩氏の付けたメロディーに従い、そこに秘められたアイヌの心情のなにがしかを表現できたらと考えている。

以下は楽譜に付記されている作曲者・清水脩氏の解説である。

「ウボボとはアイヌ語で歌の意味である。アイヌ民謡研究家の近藤鏡二郎氏の採集したアイヌ民謡の中から六曲を選んだ。同氏の曲集には日本語訳がついているが、作曲者は同氏にのんで、すべてをアイヌ語にした。しかし、原歌詞の意味不明のものもある。出来るだけ調べていただいたが、どうしても解らないものはそのままにした。この曲は立教大学グリークラブのために作曲、1961年10月脱稿、同12月3日、同合唱団によって発表された」

I くじら祭り

フンベヤンナ フンボエ
ベシタヤンナ フンボエ
インカノウタル フンボエ
サバインカル フンボエ
カーカーカー……………
(鯨が浜で上ったよ、目の見える人たち、行ってごらん)

これは踊りながらうたう歌で、鳥の鳴声がついでいる。鯨になってうずくまる人の形を鳥になつた人が羽のように両手をひろげて踊る。

II イヨマンテ（熊祭り）

ハエクデソオロ ハ!/ハ!
ハウオ ハエタタ
ハエクデラナン ハ!/ハ!
ハウオ ハエタタ
(歌詞の意味不明)

アイヌの祭りというとイヨマンテが代表のようにいわれている。熊を籠の中に入れ、その周りで手拍子をうちながら歌い、その歌で熊を元氣づける。次に罠をつけた熊を籠から出して引きまわし、花火を射かけ、首をとめて殺し、天国に靈を送る。この歌は籠の中の熊を元氣づける歌である。

III ピリカ ピリカ

ピリカピリカ タントシリピリカ
イナンクルピリカ
ヌンケクスネ ヌンケクスネ
(今日はよいお天気だ、どなたか好き、えらんでけよ) わらべうた

IV 日食月食に祈る歌

チュカムイ ホイ
エライナア ホイ
ヤイマバア ホーキワ ホイ
(光の神様「太陽や月」あなたは死んでしまった。生き返って下さい)
神に祈る、神に祈る歌はアイヌの歌に数多くあるが、これはその一つ。

V 恋 歌

ヤイ サマネナ
サマイニカシ クオソロシ
エヤミチカブ コリテンリテン
ククロボンユボ ウタントオッタ
ネブモンライケ
(林の木にもたれて、小鳥の囁きをきく。恋人は今ごろ、どうしている)
乙女の恋の悲歌

VI リムセ（輪舞）

ホイヤ ホイヤ
チャアホラレン チャアホイヤ
カリニカホラリ カリニカホラリ
ヘハンネ ネ ヘハンネ
ホクシ ハイホク
ハイクル ハフンフ ホロロ……
ヘヤベエ チャナムヤナ ホロロ…
トンギッポ ハラヘ ハラヘ
ホワホイ ハイキヨ ホロロ……
ホマホマ ホイイ ホマホマホイエ
(すべてかけ声やはやしことば一ホロロ…は舌をころがすヨーデル)
能祭りや祝いの時に円く輪になって踊りながら歌う。原歌は三部又は四部の合唱となっている。

IV 黒人靈歌

ソリスト
エミール・アレキサンダー・ハジペトロフ Emil-Alexander Hadjipetroff

1941年、ブルガリア（マケドニア地方）生まれ。幼年の頃よりギリシャ正教会の合唱団で歌う。高校時代、レアル・ギムナジウムで語学、声楽を学ぶ。ソフィア国立大学で法学を学ぶ。後に弁護士になると同時にソフィア国立男声合唱団に入団。欧州各地、日本を演奏旅行する。現在熊本在住、大学の語学講師。人生哲学「明るく逞しく生きる。人生は神の祭り、参加しなければソン、参加する時は歌いながら」

アメリカにはまだ奴隸制度があった時代、想像を絶する悲惨な環境の中での黒人の唯一の楽しみは歌であった。現世に安息のない彼等にとって、天国に楽園を約束するキリスト教が魅力にならぬはずは無かった。そういう主への贊美と安息への願望が、リズム感覚の本能的な親密さとあいまって黒人靈歌をかたちづくっていった。日本にいつ入ってきたか正確には定かではないが、1920年代（大正7年～）には『権兵衛が種まく』などと言う日本語の題名で歌われていたらしい。だが日本の合唱愛好家のあいだに爆発的に人気を博すようになつたのはアメリカ軍の慰問黒人合唱団「デ・ボア」が戦後、解散前に日本各地を演奏旅行したことによる。それこそ数多くの人々の編曲があるが、今宵は内海敬三編曲のDeep Riverもお聞き戴きます。

Little Innocent Lamb

Little lamb, little lamb, little innocent lamb,
I'm a-gonna serve God till I die.
Hypocrite, tell you what he do.
I'm a-gonna serve God till I die.
He'll talk about me, an' he'll talk about you.
Debbil, he's got a slippery shoe,
I'm a-gonna serve God till I die.
Now if don't mind, he gonna slip it on you.
'Cause dere ain' no dyin' ober dere in dat hebberry lan'.
Dere'll be joy! Joy! Joy!
Jes' take one brick from Satan's wall,
Satan's wall gonna tumble and fall.
I'm a-gonna serve God till I die.

Joshua Fought the Battle of Jerico

Jerico, Jerico, Joshua fit da battle of Jerico,
An' de walls came tumbling down, dat morning.
You may talk 'bout da men of Gideon.
You may talk 'bout da men of Soul.
But none like good old Joshua at da battle of Jerico.
Up to de walls of Jerico,
He strade with spear in hand.
"Go blow your ramb horns," Joshua cried
For the battle is in our-hand.
Joshua fought the battle of Jerico
An' de walls came tumbling down.

Deep River

Deep river, my home is over Jordan.
I want to cross over into campground.
Deep river, my home is over Jordan.
Oh, don't you want to go to the Gospel feast,
That promised land where all is peace.
Oh, deep river, Lord! I want to cross over into campground.

Set Down Servant

"Set down servant!" "I can't set down."
"Set down servant!" "I can't set down."
my soul's so happy dat I can't set down."
My Lord, you know dat you promised me,
Promised me a long white robe an' a pair of shoes.
Go yonder angel, fetch me a pair of shoes
Place dem on a my servant's feet.
Now servant, you set down.
My Lord, you know dat you promised me,
Promised me a long white robe an' a golden waist band.
Go yonder angel, fetch me a golden waist band
Place it,'round' my servant's waist.
Now servant, you set down.
"Set down servant!" "I can't set down."
my soul's so happy dat I can't set down."

Listen to the Lamb

Listen to the lamb, all a-crying!
He shall feed his flocks like a sheperd
and carry the young lamb in his boso
Ah, listen! Listen to the lamb! All a-crying. Amen.

あゆみとメンバー



福永陽一郎追悼演奏会後パーティーでくつろぐ。'91.2.10(東京芸術劇場)

セカンドテノール

秋根 武(S・25卒)	中尾 武史(S・38卒)
的野 恭一(S・28卒)	佐藤 宗一(S・40卒)
福井 熱(S・30卒)	石松 茂(S・44卒)
徳永 弘道(S・32卒)	波多江 忠(S・45卒)
馬頭 経明(S・34卒)	窪田 敏博(S・46卒)
徳永 和彦(S・36卒)	木下 満裕(S・65卒)
福田 豊(S・36卒)	



第3回エコー西高宮女声合唱団演奏会賛助出演 '91.6.14(メルバールクホール福岡)

バリトン

林 照樹(S・24卒)	森 博彦(S・44卒)
内海 敬三(S・29卒)	松尾 淳郎(S・45卒)
和田 正義(S・36卒)	小西 真二(S・46卒)
石川 和義(S・41卒)	首藤 純(S・50卒)



長崎公演(満席) '91.10.12(平和会館ホール)

ベース

山本 昭輔(S・20旧卒)	松枝 康匡(S・36卒)
下川 勝史(S・26卒)	鈴鹿 石根(S・37卒)
木道 昇(S・29卒)	藤村 文彬(S・38卒)
田中 義信(S・30卒)	中垣 登(S・47卒)
鶴 喜広(S・32卒)	岩崎 嘉範(S・55卒)
横尾 和夫(S・32卒)	



修猷館ヨット部50周年記念友情公演(ガーデンパレス) '91.10.2

平成2年5月：別府レガート15周年記念演奏会賛助出演
(エネルギー館)
平成2年7月：対馬公演(厳原文化会館)
平成2年9月：将苑会発表会賛助出演(メルバルク)
平成2年12月：愛知病院クリスマス・コンサート
平成2年12月：シュテルン福岡オーフニングパーティー友情公演
平成3年6月：エコー西高宮女声合唱団演奏会賛助出演
(メルバルク)

トップテノール

徳永麟之助(S・6卒)	原田 久瑞(S・43卒)
内海 洋一(S・17卒)	本山 和文(S・44卒)
宮地 基嗣(S・29卒)	山元 一憲(S・45卒)
乙藤 成美(S・29卒)	倉地 進(S・46卒)
高木 正志(S・34卒)	杉本 哲也(S・50卒)
出口 幸一(S・38卒)	



高崎 靖子
つしまりあけエコー

西南シャントゥールと私②

平成2年7月7日、七夕の日、西南シャントゥールをお迎えして、対馬で初めて私どものジョイントで混声合唱の演奏会を開催できました。そのきっかけとなったのは、実は私の兄と主人が西南グリーのOBであったこと、そしてかつてシャントゥールでも歌っており、大学時代の同期生が今も健在で歌っておられますので是非にというお話しになつたのでした。当地は子供の合唱団と女声合唱団、あとは中学高校のコーラス部があるのみで、一般的な混声合唱による演奏会は今回が初めてでした。わたしも女声コーラス「ありあけエコー」は1978年に産声を上げましたので今年で創立14年を迎えます。厳原町の有明山に歌聲を響かせようという意気込みが団名となりました。当初は本当に音楽好きの2、3人での出發でしたが、現在はどうにかシャントゥールと合同演奏が出来るぐらいに成長しましたし、今回のコンサートは大変刺激となりました。対馬は離島という大きな障害があつて、生の演奏を聞くチャンスは極めて少ないので。ようやく近年になって、ウイーン少年合唱団、パリ少年合唱団、九州交響楽団、そして西南シャントゥールと徐々にではあります。文化の光が見えはじめ、島民の文化意識にも向上が伺えます。何よりも多感な時期の子供たちに生の文化に触れる機会を多く与え、情操豊かに成長してもらいたいものだと離島の一主婦として願っています。そんな意味でシャントゥールとのジョイントは意義深いものとなりました。昨日のことのように懐かしく思い出されます。対馬は国境の離島ですが、それだけに歴史的ロマンも多く、しかも澄み切った空氣、潮の香り、海の幸と自然の恵みが豊かで素晴らしいです。またいつの日かシャントゥールの皆様とジョイントコンサートをこの地で催すことができればと心待ちに致しております。最後になりましたが、皆様のご活躍を主人ともども心よりお祈り致しております。

(1991/10/30)

絵画材料(洋画用・日本画用・デザイン用)

版画材料(木版用・石版用・銅版用)

額 ぶ ち

彫 塑 材 料

山本文房堂

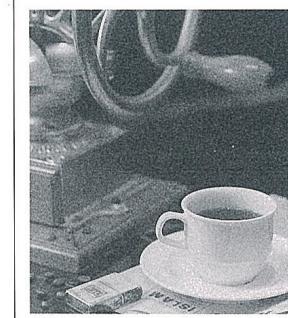
●本店／福岡市中央区大名2丁目4-32 ☎092(751)4342

●すみだか店／福岡市中央区天神2丁目住友生命ビル地下 ☎092(721)0163

●地下街店／福岡市中央区天神2丁目地下3号313 ☎092(771)2727

●西新岩田屋店／福岡市早良区西新4丁目 西新岩田屋3階 ☎092(822)0978

●マークイン／福岡市中央区渡辺通4丁目 天神ユーテクプラザ5階 ☎092(733)8890



coffee
FUJIKAN
since 1960

●天神朝日会館一階店
●天神ビブレB1店

BLENDS
Feel happy with our coffee.
ブレンズ

●天神西日本ビルB1店
●博多駅ビル一階店
●香椎セビア通り福銀横店

Since 1960 トラッドな
コーヒーショップ

「藤館グループ」
創業31年、藤館グループはお客様のニーズを大きく2つに分けました。
ビジネスマン等、忙しい時間があり
ない人へ、通りすがりのオアシス
「藤館コーヒーの店」。
時間に余裕がある時、せわしい街の
流れから出て、くつろいた時間が欲し
い人へ、トランジショナルスペース
「藤館」。
主役はお客様、コーヒーは脇役を勤
めます。

三十七年目の挑戦

「白髪は年齢のしるしてあって、知恵のしるしてではない」(西謙)。考えさせられる諺である。人は誰でも歳相応に内面的にも成長したいと願う。白髪の一本一本は長い半生の経験や努力から来る知恵や才覚の証であって欲しい。わがシャントゥールもそろそろ白髪が始める年齢に近づきつつある。外観的名声や物理的馬鹿ではなく、いぶし銀のように内面から輝く白髪であって欲しい。

昨年に続き今年も過密な道程を歩いた。昨年の嚴原、今年の長崎市と意欲的に県外にも出た。県外の主催公演は苦労が多く疲労も極に達する。だがその疲労の中に筆舌に尽くし難い快さがあった。

37年目にして今われわれは新しい挑戦をしている。「きつい!」「もっと樂にいこう」と様々な意見もある。だが己の限界に挑む苦しみなしに成長はなく、眞の喜びもない。幸いわがシャントゥールには強い同志的絆がある。挑戦しようというエネルギーもある。何よりもロマンを追う男たちだ。そうでなければ今のこの苦しみから既に逃げているはずだ。一人でも多くの同志と未来の喜びを分かち合いたいものだ。

「青春とは人生のある時期を言うのではない、心の持立ち方を言う。青春とは安易を振り捨てる冒險心を意味する。人の胸には未知への憧れ、人生への興味の歓喜がある。この喜びを求めて続ける限り、ひとは八十歳といえども青春を楽しむ……」わがシャントゥールを思うときサムエル・ウルマンのこの詩をいつも思い出す。そして文字通り八十四才の現役青年、徳永麟之助会長をわれわれは誇りに思う。そして、今の苦しい挑戦の後、シャントゥールにもし白髪が光ったら、それをこそわれわれは誇りにしたい。

毎年ご来場くださり、ご支援くださる皆様に更なる精進をお誓い申し上げます。

最後になりましたが、賛助出演下さいましたエコー西高宮女声合唱団の皆様、本当に有難うございました、心より感謝申し上げますとともに貴団の一層の隆盛を期待してやみません。

マネージャー 佐藤 宗一
西南シャントゥール事務局
〒810 中央区今泉1-13-29
TEL 781-5935 FAX 781-5837

デザイン・制作/株式会社 アルコス

(喫茶)

コーヒーハウストーソン

福岡市城南区別府1-4-1 (別府橋ソバ)
TEL 851-7091

(貸店舗)

藤村有限公司

福岡市城南区別府1-4-8
TEL 831-2520

“曲がり角”がズレッと先に

究極の美容液「AGTコンセントレート」新発売

いつまでも素肌年齢を若々しく

最新のバイオ技術によるハイテク美容液

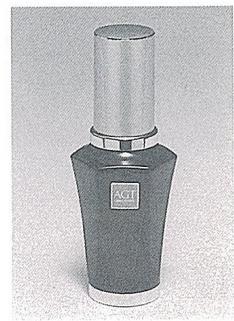
ぐんぐん肌に透明感を

日焼の乾燥ジワにうるおいを

素肌にハリを保つ



カネボウ



美しく見えることは楽しい。

軽い、ズれない、サビない、金属をまったく使用しない、スポーツアイウェア。
EYEMETRICS®

新発売 UV400
ストライトHIX ハードィーマルチ

瞳にやさしい
紫外線完全カットレンズ



■新天町店 ■渡辺通店 ■博多駅ビル店 ■西新店 ■香椎店 ■春日店 ■久留米リベル店
■天神地下街店 ■川端通り店 ■野間店 ■ダイエー原店 ■長住店 ■ジャスコ東郷店 ■太宰府店



ティスティな
場面が
好きです。



株式会社 PIETRO DRESSING
福岡市中央区塩院2丁目10-13 092-716-0300
・お問い合わせ フリーダイヤル・
0120-37-7750

